

2024年



かわむら小児科

モ〜モ〜くらぶ

公式 LINE



劇症型溶連菌感染症

小児では普通の溶連菌が流行していますが、成人では劇症型溶連菌(人食いバクテリアとも呼ばれています)が全国的に見られているようです。小児では少なく私も見たことはありませんが、30代以上の大人が多く、妊婦さん、糖尿病など基礎疾患のある人、高齢者はリスクとなるようです。

約半数は感染経路は不明で、のどからの感染、皮膚からの感染で起こることもあります。(普通の溶連菌もとびひを起こします)。症状は、最初は、手足の腫れ、痛み、発熱、のどの痛み、嘔吐下痢などの消化器症状などから始まり、急激に1日2日で菌が全身に広がり、意識消失、出血症状、多臓器不全(全身の臓器に障害が出てくる)を起こし、死に至るケースもあるようです。

傷ができたならきれいに治しておくこと、ひどいどの痛みがあれば疑うこと(通常の溶連菌でも同様です)、手洗い、マスクが予防になります。

早期の発見、早期の治療が必要な病気です。小児では少ないと思いますが、妊婦の方、どうぞお気をつけください。

.....感染症情報(6月1日現在).....

- ★インフルエンザは先月からほとんど見られなくなりました。
- ★新型コロナはまだ少しずつ見られています。大人からうつっているケースが多いです。
- ★代わりに溶連菌、嘔吐下痢症、アデノウイルス、RSウイルスなどの感染症が多くなってきています
- ★小中学生ではマイコプラズマも出ています。小中学生で長引く咳、発熱などあればその可能性があります。

さかさまつげ

逆さまつげはまつ毛の向きが眼球側に向いている状態です。

症状は眼脂や流涙、目の充血、目をよく擦るなどがあります。ただし、これらの症状は重い視力障害を起こす可能性のある、先天性緑内障や先天性鼻涙管閉塞、感染性の角結膜炎でも生じるため、症状がある場合には眼科を受診して相談されることをお勧めします。

逆さまつげの多くは成長に伴って自然に軽快することも少なくありません。症状が強くない場合は、小学校に入るまでは経過観察するケースが多いです。6才前後になっても自然治癒が望めないと考えられる場合や、屈折異常弱視がある場合には年齢に関係なく手術を選択する可能性が高いとされ、眼科医との相談になります。

(ゆっけ)

はじめてのおつかい

作:筒井頼子 絵:林明子

ママにお使いを頼まれた5歳の女の子みいちゃん。「ぎゅうにゅうください」だれもいないお店の中、みいちゃんの小さな声にお店の人は気が付いていないみたい。

みいちゃんと一緒にはじめてのおつかいが体験できる絵本です。

(いちご)



6月8日(土) 休診

日本小児科医会総会フォーラム出席のため

